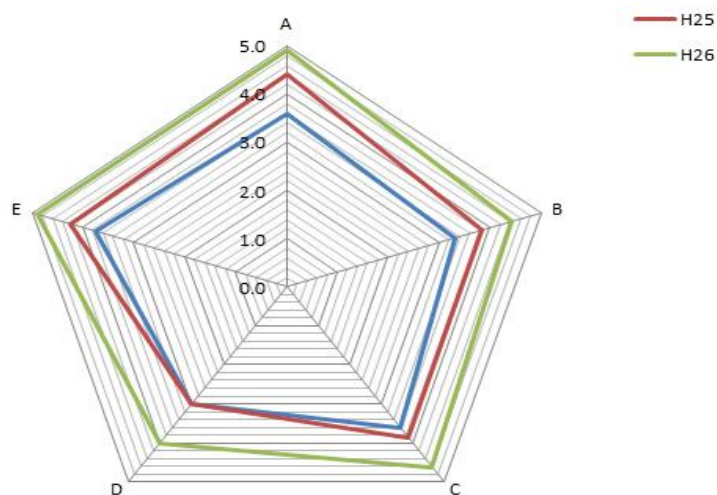


3年間の取組テーマ別委員会及び取組全体に関する評価観点の推移

	H24	H25	H26
A	3.6	4.4	4.9
B	3.3	3.9	4.4
C	3.6	3.9	4.6
D	3.0	3.0	4.0
E	3.8	4.2	4.9

取組に関する評価観点の推移

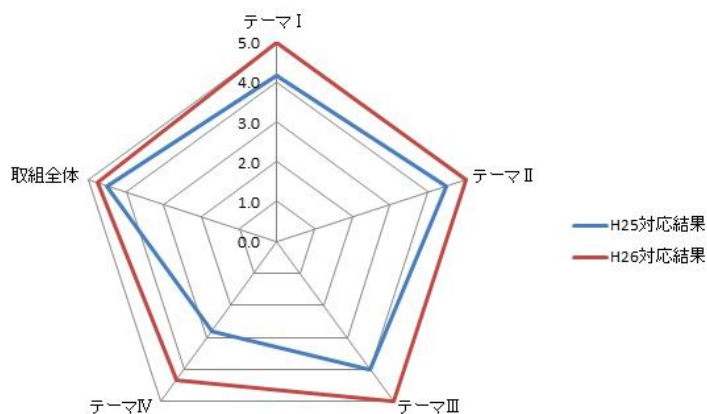


3年間の改善提案に対する各委員会の自己評価は以下の通りであった。

評価委員会からの改善提案（自己評価は、1～5の5段階で評価）

改善提案に対する対応	H25対応結果	H26対応結果
テーマⅠ	4.2	5.0
テーマⅡ	4.5	5.0
テーマⅢ	4.0	5.0
テーマⅣ	2.8	4.3
取組全体	4.5	4.8

改善提案に対する対応



① 1 4 大学

平成 26 年度：今年度は最終年度ということで、概ね高い評価となっていた。

高い評価を得ていた項目は、「本事業の大学への反映」の項目では、①本連携取組で設定している4つの取組テーマに対して、積極的に関わることができた(4.5)、②各大学の学生リーダーになり、合同フォーラムの企画運営に関わった学生がリーダーシップを学内で発揮できるようになった(4.5)、「産業界との連携協力」の項目では、③各大学独自の産業界との連携が拡大・深化した(4.4)、「連携への提供と大学への還元」の項目では、④大学の課題や成果を連携取組へ提供できた(4.6)、②本連携の取組成果を大学に還元できた(4.5)である。

反対に、低い評価になった項目は、「本事業の大学への反映」の項目では、①本連携取組によって構築した産業界人材が活用できた(3.9)、「産業界等との連携協力」の項目では、①本連携取組によって構築した産業界人材が活用できた(3.7)、④「企業が求める人材像調査」結果を大学の教育改善及び体制整備につなげることができた(3.8)であった。

上記結果から分かったことは、内部評価で定めた5つの内部評価の観点の中で、連携取組は大学や産業界とで円滑に進行し、協力関係や成果については一定の評価を得ていることであり、未だ達成できていないのは、産業界とそれぞれの大学とが具体的に交流することであった。また、昨年度実施した「企業が求める人材像調査」結果の活用については、今年度は、各大学で調査結果をもとにキャリア教育のカリキュラムやPBL等の手法・手段等について検討が進んでいる。内部評価委員会の議論の中で、それら成果を基に、次年度からカリキュラムや教育プログラムの改善やそれらに伴う体制整備を進めている大学が多いことも分かった。

3年間：大学の3年間の自己評価は、5つの観点のうち、「大学の取組が連携に生かされているか(A)」「連携の取組成果が大学に還元されているか(B)」「産業界等や産業界ニーズが連携取組に取り込まれているか(C)」の3項目について、自己評価を行ってきた。3年間を通じて、3.4→3.9→4.4と、着実に成果が上がっている。ただ、14項目にわたった詳細な評価を個別にみると、できている点と十分にできていない点に分かる。

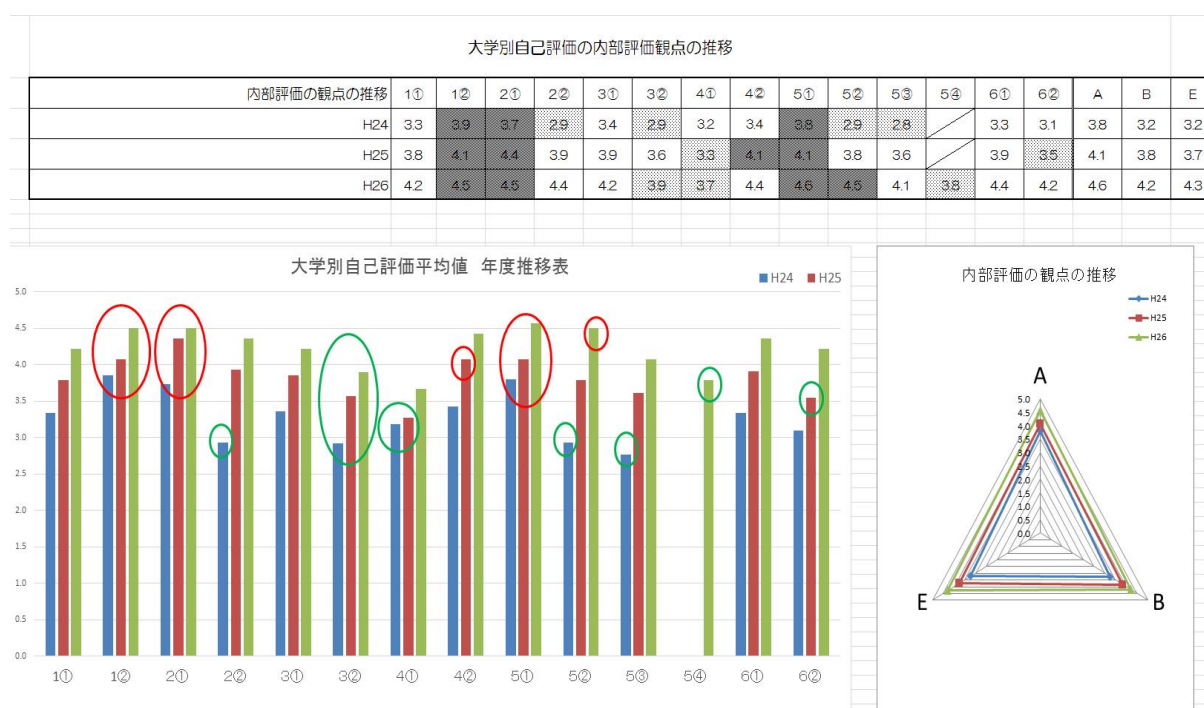
＜3年間でできた点＞

- ・学生リーダー会への評価
- ・4つの取組テーマへの積極的な参加
- ・本取組への協力や情報提供
- ・本取組成果の大学への還元

＜3年間でまだ十分でない点＞

- ・大学の人材育成に対する企業の理解
- ・本取組で関係性のできた産業界等の人材の活用
- ・「企業が求める人材像調査」結果の大学での活用

大学の3年間の自己評価の推移は以下の通りであった。



③各大学の人材育成に係る実績調査

昨年度に引き続き、本取組成果が大学の教育改善や体制整備につながっているかを評価するために、人材育成に係る取組実績調査を全大学から提出してもらうこととした。

調査結果から分かったことは以下である。

インターンシップや PBL の実施状況については、参加学生数、協力企業数が多い大学とそうでない大学とのばらつきはあるものの、各大学ともに、ほとんどの項目で昨年度より数値が上がっていることが分かった。数字としては本取組内の活動に限定した数値を提供している大学もあることから、それぞれの大学全体で取り組まれているものとしては、もっと広がりがあるものと思われる。また、インターンシップより PBL に参加している学生数が上回っており、PBL に対する大学の積極的な姿勢が表れている。また、本取組で力を入れていた「教員の参加」及び「協力企業数」の増加が顕著であった。テーマⅢ委員会では、PBL の教育プログラムについて質の高い事例やその手法等について分析し、共同開発し、各大学に還元した。PBL への取組増加に本取組の成果が寄与したと評価できる。

一方、教育課程に組み込まれているキャリア教育科目数は大学によってことなるもののいずれの大学でも開設されており、多い大学では 43 科目の大学もあった。反面、入学から卒業までを通した体系的キャリア教育カリキュラムについては、必修科目が昨年度より減少し、学年配当科目が増加していることが分かった。テーマⅠ委員会でキャリア教育カリキュラムの整理・分類を行い、成果を各大学に還元した。「企業が求める人材像調査」結果等を含め、本取組成果の活用によって各大学で体系的なカリキュラムの改善

が進んでいると評価できる。

人材育成に係る実績調査 2年間の推移					
実施内容	年度	プログラム数	学生参加者数	教員参加者数	参加企業数
インターンシップ	H25	42	1,260	76	650
	H26	162	1,444	100	764
PBL	H25	53	1,473	113	79
	H26	95	2,504	236	81
キャリア教育科目数（教育課程に組み込まれているもの）	H25	163	24,623	313	157
	H26	204	22,222	425	209
キャリア教育科目数（外部のキャリア教育等を利用しているもの）	H25	2	1,691	19	1
	H26	11	2,015	33	33
体系的キャリア教育カリキュラム（必修科目）	H25	12	4,668	58	0
	H26	7	2,922	94	0
体系的キャリア教育カリキュラム（学年配当科目）	H25	21	2,319	76	76
	H26	27	3,713	92	88
ICTの活用	H25	有10 無2	13,864	293	0
	H26	有11 無2 回答なし1	19,988	369	0
他大学との連携	H25	9	93	16	11
	H26	9	36	26	11

